

米国中期債運用戦略ファンド (ダイワ投資一任専用)

追加型投信／海外／債券

第5期 2020年3月11日決算

作成対象期間 (2019年9月12日～2020年3月11日)

第5期末 (2020年3月11日)	
基準価額	10,497円
純資産総額	3,084百万円
第5期	
騰落率	+4.1%
分配金	0円

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「米国中期債運用戦略ファンド(ダイワ投資一任専用)」は、このたび、第5期の決算を行いました。

当ファンドは、米国中期債運用戦略マザーファンドへの投資を通じて、主として米国債に実質的に投資することで、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

◆運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/> にアクセス→
ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■運用報告書についてのお問い合わせ

フリーダイヤル 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)



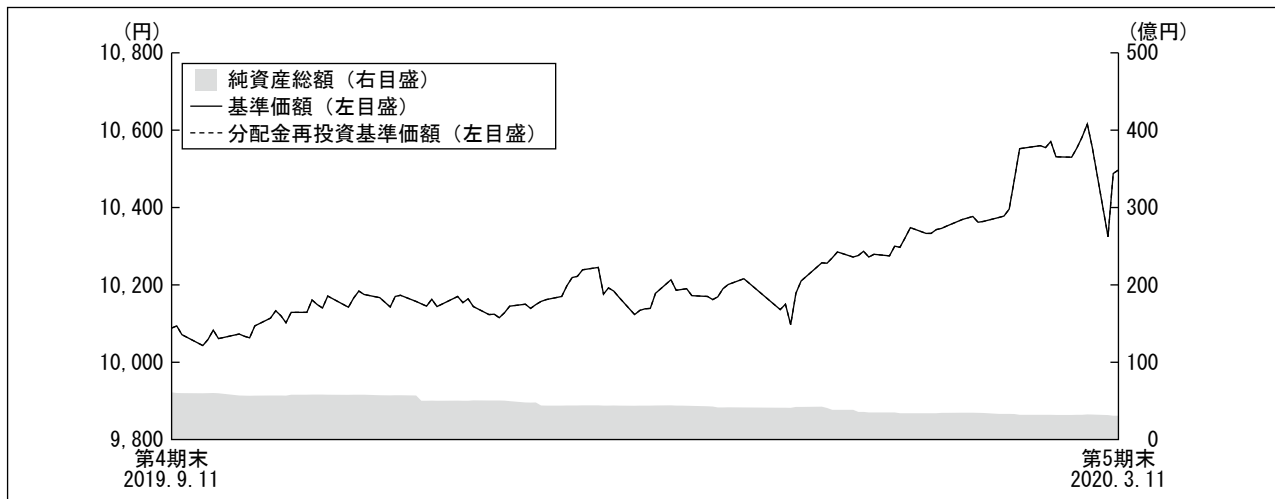
三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1

<https://www.smd-am.co.jp>

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

第5期首：10,088円

第5期末：10,497円（既払分配金 0円）

騰落率：+4.1%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、米国中期債運用戦略マザーファンドへの投資を通じて、主として米国債に実質的に投資を行いました。

保有する債券の価格上昇や利息収入が主因となり、基準価額は上昇しました。

【1万口当りの費用明細】

項目	当期		項目の概要
	2019年9月12日～2020年3月11日		
	金額	比率	
信託報酬	24円	0.229%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,269円です。
（投信会社）	(17)	(0.164)	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	(6)	(0.055)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(1)	(0.011)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	2	0.015	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.009)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.006)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.000)	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	25	0.244	

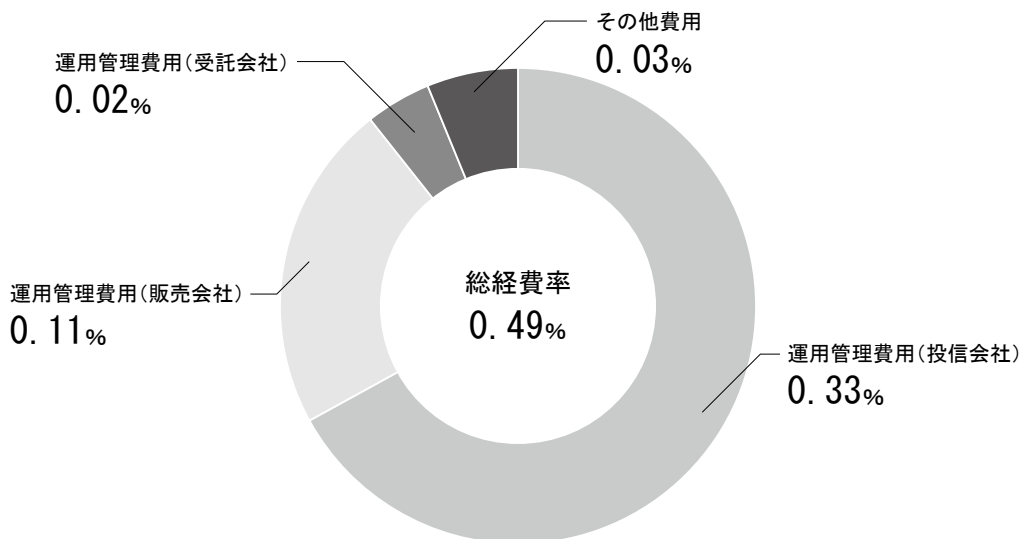
* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

参考情報 総経費率（年率換算）



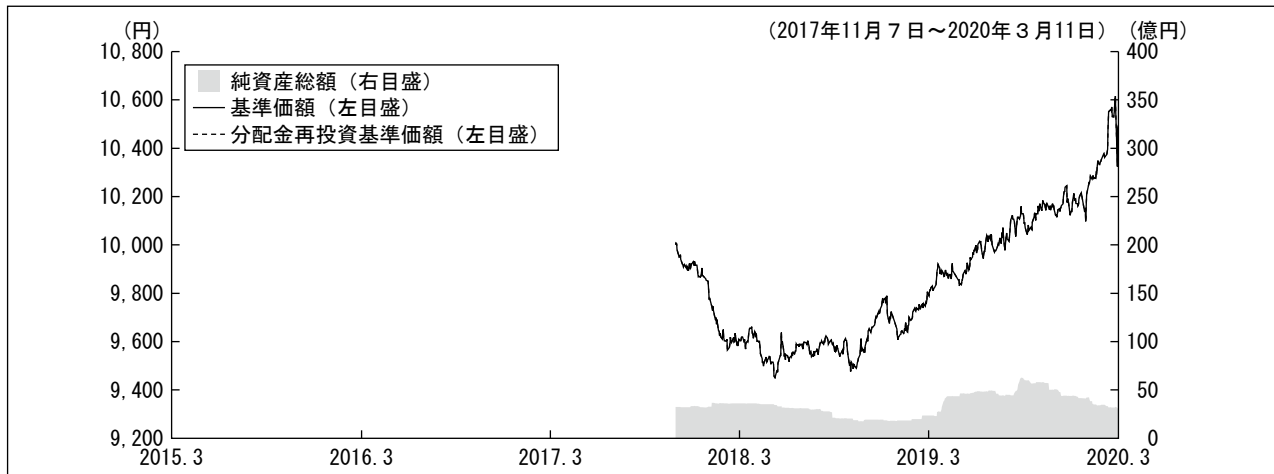
*各費用は、前掲「1万口当りの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

*各比率は、年率換算した値（小数点以下第2位未満を四捨五入）です。

*上記の前提条件で算出しているため、「1万口当りの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率換算）は0.49%です。

【最近5年間の基準価額等の推移】



*当ファンドの設定日（2017年11月7日）より表示しております。

*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を表示しております。

*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2017年11月7日 設定日	2018年3月12日 決算日	2019年3月11日 決算日	2020年3月11日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,603	9,790	10,497
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△4.0	1.9	7.2
純資産総額 (百万円)	3,245	3,610	2,357	3,084

【投資環境】

米国5～7年の中期ゾーンの国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。期初から2019年10月上旬にかけては、米国の製造業の景況感が景気拡大・縮小の分岐点と言われる水準を下回ったことや中国の鉱工業生産の鈍化、ドイツの企業景況感の悪化などを背景に、利回りは低下しました。その後、12月にかけては、米国が対中制裁関税の引き上げを先送りするなど米中の通商協議が進展し、両国間で「第1段階の合意」に達したことや、米国での堅調な雇用統計の結果などが影響し、利回りは上昇しました。2020年1月以降は、新型コロナウイルスが世界的に拡大したため、世界経済の減速懸念が高まったことや米国が緊急利下げを行ったことなどを受け、利回りは大幅に低下しました。

米ドル円相場は円高に振れました。期初から2020年1月半ばにかけては、米国の企業景況感指数の悪化や、香港をめぐる米中対立、米国とイランの緊張の高まりなどは円高材料となった一方、米中の通商協議が進展したことや、米国の良好な雇用統計の結果などが好感され、円安の動きが優勢となりました。その後、2月に日本のGDP（国内総生産）が5四半期ぶりにマイナス成長になったことから、日米間の景気格差などが材料となり、一時112円台まで円安が進行する場面もありましたが、新型コロナウイルスの拡大を受け、市場のリスク回避姿勢が強まったことや米国が緊急利下げを行ったことなどを背景に、一時101円台まで米ドルが売られるなど、円高が進行しました。

【ポートフォリオ】

■米国中期債運用戦略ファンド（ダイワ投資一任専用）

主要投資対象である米国中期債運用戦略マザーファンドを期を通じて高位に組み入れ、期末の実質的な公社債組入比率は95.1%としました。

■米国中期債運用戦略マザーファンド

当期の騰落率は、+4.2%となりました。

債券ポートフォリオは、5年～7年までの残存期間毎の米国債の組入比率がほぼ均等となるように構築し、残存期間の分散を図りました。

為替ヘッジ取引の判断にあたっては、大和証券株式会社からの助言を受けて以下の運用を行いました。ヘッジ比率は、0%程度から40%程度の範囲で調整しました。期初は30%台後半とし、2019年9月末は10%程度、10月半ばから12月末にかけては0%程度まで下げました。その後、2020年1月初旬は20%程度とし、2月下旬には40%程度まで引き上げ、3月は20%台前半から後半としました。「守る為替ヘッジ戦略」は、期初は60%台前半とし、2019年9月末は30%台半ば、10月半ばから12月末にかけては25%を下回る水準としました。その後、2020年1月初旬は40%台半ばとし、2月下旬には60%台半ばまで引き上げ、3月は40%台後半から50%台前半としました。「攻める為替ヘッジ戦略」は、期を通して円安局面と判定し、「守る為替ヘッジ戦略」を基準にヘッジ比率を25%程度減らす調整を行いました。

【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

【分配金】

分配金につきましては、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、見送りとさせていただきます。
 なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳

（1万口当り・税引前）

項目	第5期	
	2019年9月12日 ～2020年3月11日	
当期分配金 (円)		0
(対基準価額比率) (%)		0.00
当期の収益 (円)		—
当期の収益以外 (円)		—
翌期繰越分配対象額 (円)		703

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■米国中期債運用戦略ファンド（ダイワ投資一任専用）

引き続き、運用の基本方針に従い、マザーファンドへの投資を通じて、主として米国債に実質的に投資することで、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

■米国中期債運用戦略マザーファンド

引き続き、債券ポートフォリオは、米国債5～7年のラダー型とします。

為替ヘッジ取引の判断にあたっては、引き続き、大和証券株式会社からの助言を受けて運用を行います。
 なお、投資助言者の運用方針は以下の通りです。為替ヘッジは「攻・守」合わせた戦略を適用します。「守る為替ヘッジ戦略」は常時適応し、債券価格と米ドル円レートが逆方向に変動する動きを捉え、安定した収益確保を図ります。さらに、米ドル円の市場データを分析した結果、追加収益獲得の機会と捉えた際は「攻める為替ヘッジ戦略」を機動的に適用し、「守る為替ヘッジ戦略」を基準にヘッジ比率を増減する調整を行います。

お知らせ

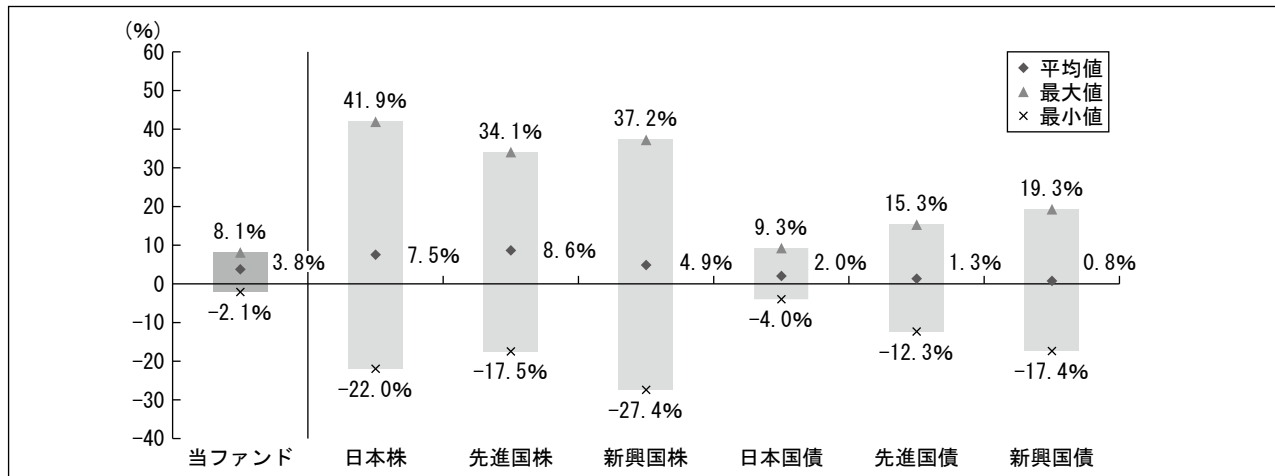
該当事項はございません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2017年11月7日～2022年9月12日（約5年）	
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、主として米国債に実質的に投資することで、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	米国中期債運用戦略マザーファンド受益証券
	米国中期債運用戦略マザーファンド	米国債
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・運用はファミリーファンド方式で行います。 ・残存期間が5年～7年程度の米国債に投資し、原則として、各残存期間毎の投資金額がほぼ同額程度となるような運用（ラダー型運用）を目指します。 ・米国債の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。 ・実質組入外貨建資産については、「守る為替ヘッジ戦略」と「攻める為替ヘッジ戦略」の組合せにより、最適な為替ヘッジ戦略を目指します。 	
分配方針	毎年3月、9月の11日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含みます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。	

【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

当ファンド：2018年11月～2020年2月
 代表的な資産クラス：2015年3月～2020年2月



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

＜各資産クラスの指数について＞

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX（配当込み）	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	FTSE Fixed Income LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	J.P.Morgan Securities LLC

（注）上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

当該投資信託のデータ

<<当該投資信託の組入資産の内容>>

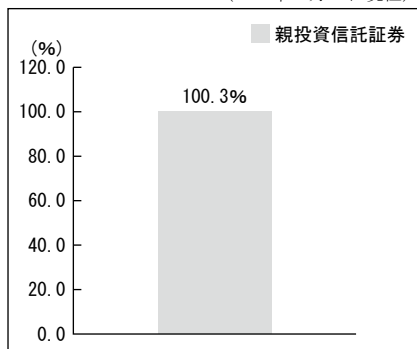
【組入ファンド】

	第5期末（2020年3月11日）
	組入比率
米国中期債運用戦略マザーファンド	100.3%

*組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【資産別配分】

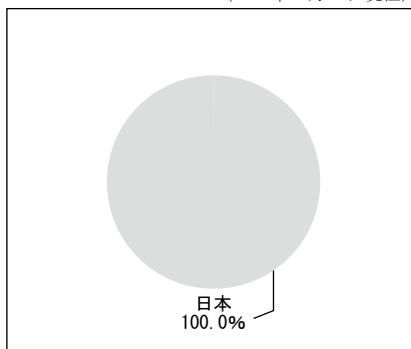
(2020年3月11日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

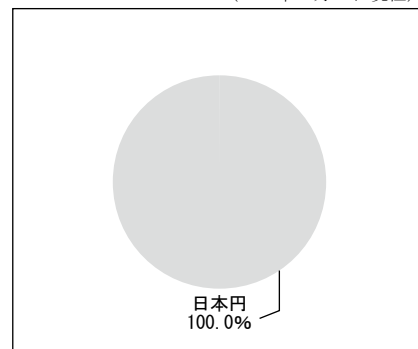
(2020年3月11日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2020年3月11日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【純資産等】

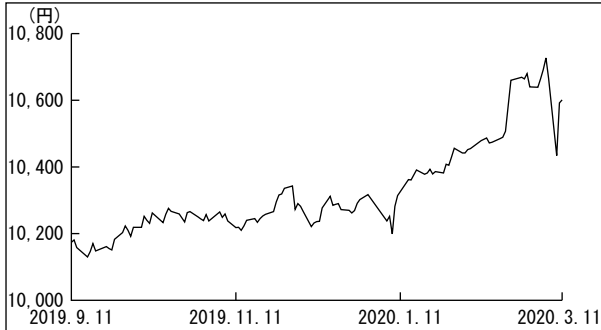
項目	当期末
	2020年3月11日
純資産総額	3,084,601,500円
受益権総口数	2,938,620,203口
1万口当り基準価額	10,497円

*当期中における追加設定元本額は372,527,758円、同解約元本額は3,483,552,309円です。

〈〈組入ファンドの概要〉〉

■米国中期債運用戦略マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当りの費用明細】

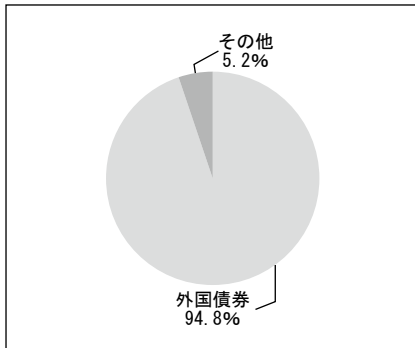
(2019年9月12日～2020年3月11日)

項目	金額
その他費用 (保管費用)	1円 (1)
(その他)	(0)
合計	1

*費用項目については、2ページの項目の概要をご参照ください。
 *期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 *円未満は四捨五入しています。

【資産別配分】

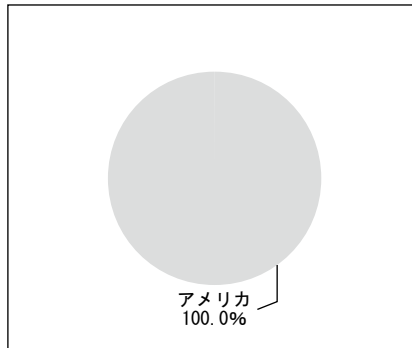
(2020年3月11日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

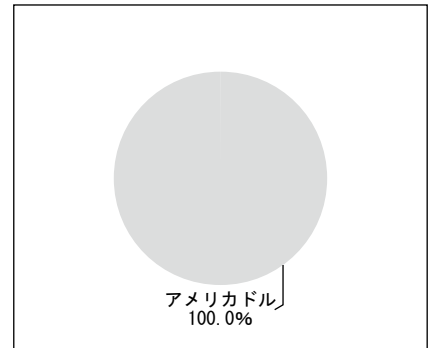
(2020年3月11日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2020年3月11日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【組入上位銘柄】

(2020年3月11日現在)

	銘柄名	通貨名	比率
1	US TREASURY N/B 2.5 02/28/26	アメリカドル	24.4%
2	US TREASURY N/B 1.375 08/31/26	アメリカドル	24.3%
3	US TREASURY N/B 2.75 08/31/25	アメリカドル	24.2%
4	US TREASURY N/B 1.125 02/28/27	アメリカドル	21.9%

(組入銘柄数 4銘柄)

*比率は純資産総額に対する評価額の割合です。
 *全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

※ 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。
 ※ 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は組入ファンドの直近の計算期間末日のものです。